

尾ノ上の風 II

第21号



学ぶ きたえる 助け合う

文責：校長 村上 正祐

校外でしっかり学びました

平和のありがたさ 6年修学旅行

水を使った体験遊びのおもしろさ 2年見学旅行

教室での学びは大切ですが、学校を出て実際に見たり、聞いたり、体験したりする活動は何にも増して、子どもたちには貴重な学習になります。百聞は一見にしかずという言葉を実感しているところです。

コロナ禍での修学旅行、見学旅行を実施するにあたっては、計画の段階から関係機関の方々から見学地での感染防止対策を十分に検討しました。特に、宿泊を伴う修学旅行は6年生の一大イベントですから時間をかけて検討しましたが、準備した価値があるだけの学びの場になりました。修学旅行は、10月20日から1泊2日の日程で実施しました。長崎市内の現地での学習は見る資料も、聞く話も胸に響くものがとても多かったと感じました。現地のガイドさんから、グループ毎に分かれてお話を聞きながら被爆地を回ったり、語り部の方の貴重な体験談を聞いたりすることができ、平和のありがたさを感じることができました。

2年生は10月27日に、藤崎宮駅から御代志駅まで熊本電気鉄道に乗って公共交通機関のマナーを守って利用する体験と八景水谷の水の科学館で水についての話を聞いたり、体験遊びをしたりして学んだそうです。朝の出発を見送りましたが、バスに乗り込む子どもたちの生き生きとしたうれしそうな表情を見て、校外学習は子どもたちにとって学習の機会だけでなく、学校生活のアクセントにもなるなあと強く実感したところです。

尾ノ上小では、1年生がすでに見学旅行を実施しています。今後は、11月に3年生がミカン狩り体験、4年生が通潤橋の見学、5年生が阿蘇での宿泊学習を予定しています。



長崎市の平和公園
で現地ガイドさんから
話を聞く6年生(左)



水の科学館で実験
を興味津々で見守る
2年生(右)

ご一読をお願いします

新型コロナウイルス感染に対する理解は少しずつ進んでいるようですが、大人発した何気ない言葉などによって、子どもたちが不安になったり、偏見を抱いてしまったりするケースがあるそうです。ぜひ、右のQRコードを読み込んでお知らせのところにタップしてお読みください。

